

第83回番組審議委員会議事録

日時：令和元年10月9日（水）13時30分～

場所：富士市民活動センター/コミュニティエフ（富士市吉原2丁目10番20号）

1. 委員総数 10名
2. 出席委員数 7名
3. 出席委員の氏名
稲葉美津恵 副委員・和久田恵子 副委員
土井一浩 副委員・安藤滋 委員
小岱亜季 委員・長橋順 委員
内藤佑樹 委員（順不動）
4. 放送事業者出席者名
小沢教司 常務取締役・山本茂 統括部長・鳥羽圭 番組ディレクター 3名

稲葉番組審議副委員長：ごあいさつ

皆様、こんにちは。

お忙しい中、ありがとうございます。

和久田副委員が来るのを待っていましたが、お見えにならない様なので、進行を務めさせていただきます。よろしくお願いします。

小沢常務取締役：ごあいさつ

皆さん今日もお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

先月9月で2年間の番組審議委員会の任期が終了となりました。今月10月から2年間、また新しいメンバーで番組審議をお願いしたいと思います。今日は、遠藤委員長がはじめてのお休みとなりましたので今日は急遽、ベテランの稲葉副委員に司会進行をお願い致します。今日は新しいメンバー3名の内2名にお越し頂いておりますので、簡単な自己紹介を各自お願いいたします。

※各自自己紹介は省略

前のご報告

山本：前回、第82回番組審議委員会で審議した地元中高生が企画出演番組「ラジオエフ部」のご報告です。議事録の詳細は、当社ラジオエフHP内からご覧いただけます。

主な話しの内容として、「今の高校生像」がわかる内容で、番組制作者側としても非常に参考になるご意見をいただきました。また昨今、若年層のラジオ離れやテレビ離れが叫ばれる中、10代の若年層、地域の中高生をどう取り込んでいくかという所、

どの様に投げかけ、どう参加して頂けるかが、ラジオ局側としても大きなテーマであり課題だと思います。前回頂いたご意見を参考にしつつ、しっかりと諦めず10代のラジオへの参加や聴取率の向上に努めて参ります。

番組審議

- ・テーマ 「コードナンバー3776」(30分番組)
- ・放送日時 9月10日(火)
(毎月第2・4火曜日16:00~16:30 OA生放送)
- ・出演 ラジオエフ男性ナビゲーター
- ・番組編成制作方針、説明
- ・質疑応答

山本：今日の審議番組は、毎月第2・第4火曜日の午後4時から放送されている、「コードナンバー3776」という30分番組です。番組タイトルからもお察し頂ける通り、「富士山」をテーマとした番組ができないかという企画で、放送開始から約4年が経過しています。番組詳細につきましては、担当番組ディレクターの鳥羽から簡単にご説明させていただきます。よろしくお願ひします。

鳥羽：「富士山の魅力に改めてアプローチする」そういった番組づくりをしています。

地元にながら、富士山を毎日見るけど、それ以上の歴史的な事や構成資産の事を詳しく知らないという地元の方へ向けた番組です。これまで取上げた内容は、登山道・歴史・芸術・自然・気象現象・周辺の構成資産・お祭り等を取上げてきました。番組構成は、音楽を織り交ぜつつ難しくなく聴いて頂ける番組づくりを心がけています。オープニングでは今の季節の富士山を取上げ、2つの構成に分けてテーマを放送しています。エンディングでも富士山にまつわるお話をご紹介します。今日お聴きいただく内容は、先月9月10日に放送されたもので、「信仰の対象としての富士山」を取上げました。2パートに分かれています。音楽部分はカットしてあります。エンディングでは10月20日に開催される「富士山ヒルクライム2019 ツール・ド・ニッポン」を取上げました。全体で約6分の内容をお聴き頂きます。

山本：ありがとうございました。富士山と言うと、エフエリア(富士市・富士宮市)に住む人は皆さん、それぞれ思いがあると思います。富士山のふもとにあるラジオエフとしても、取上げない訳にはいきませんし、無視できません。何かしらの形で富士山をテーマとした番組を常日頃から放送したいと思います。今日、お聴き頂き皆さんの富士山に対する思いや、番組へのアイデアを頂ければ幸いです。よろしくお願ひいたします。それでは、お聴きください。

約6分後

山本：それでは稲葉さん、ご審議の程よろしくお願い致します。

稲葉：今日は、「コードナンバー3776」について富士市・富士宮市の身近な所で富士山を拝める地域としての立場からの忌憚のない番組審議ができれば良いと思います。

和久田：この番組は今回初めて聴きました。3776というタイトルは富士市・富士宮市周辺に住む方ならどなたでもわかるので、タイトルは良いと思います。男性ナビゲーターが事務的なお話をされていて、これが好きな方と苦手な方とに別れると思う。私の勉強不足で「遥拝（ようはい）・登拝（とはい）」という単語の意味がわかりませんでした。噛み砕いた説明をして頂けるとわかりやすい。

聴いている方が知っているという前提で話されるとわからない部分がある。

富士山信仰という事で「富士講」を知らない世代も沢山いらっしゃいます。

番組がどの世代をターゲットとしているかわからないが、若い方にも聴いてもらうならば、「前にもお話ししましたが富士講というのはこういう事ですよ」的な簡単な説明をして頂けるとわかりやすい。

稲葉：私も今「登拝」と言われながら、その意味を思い出しながら聴いていました。

その辺の言葉の説明は必要だと思います。

内藤：この番組は、昨日も放送されていましたよね。

鳥羽：はい、放送しています。

内藤：この番組の事が頭にない状況でたまたま先日、車内で聴いて、その印象は、すごくエフエムっぽいと感じた。クリス・ペプラーが話している様な感じのAMとFMの違いというか、芸人がしゃべるのと違い、DJが話しているスタイリッシュな感じの印象を受けた。BGMも若者に有名な mitsu the beats というDJトラックメイカーを起用しており、オシャレな音楽がバックに流れている。次のBGMが楽しみになる様な聴き方ができた。東京や都市部での性格をもったカッコいい雰囲気のラジオ番組。ラジオエフで制作された番組だったと初めて知った。若者がBGM代わりに聞くには良い番組。正直、内容が頭に入ってくるというよりも、雰囲気を楽しむ番組。聞き手がどう聞くかによって印象は変わるかもしれないが、ドライブしながら聞くには丁度良い。この場所で聴くのと、車内で聴くのはまた違う印象がある。車内ではBGMが大きく、ここではナレーションが大きく感じた。教科書的というか、博物館で流れている様なイメージで、面白い・面白くないではなく、真面目な番組。

富士山についての深い意味を知りたいと思って聴いてはいないが、好印象を受けた。

稲葉：車内とここで聴くのは違うというのはあるかもしれませんが。若い人に聞いてもらいたいのか、家でゆったりとした雰囲気の中、聴いてもらいたいのかという所で、番組のつくり方も変わって来ると思います。ありがとうございます。

長橋：オープニングで富士山の今の季節の事を取上げ、今月のトピックを2パートで紹介、エンディングで富士山にまつわる話題のご紹介と、番組構成は良い。ナレーション

は坦々としていて BGM も良い。個人的にこのナビゲーターの声は好きで聴きやすい。私は皆さんと同じで、難しい単語に関しては、やはり目に見える事ではないので説明が欲しいし配慮に欠けるが、良い構成・番組だと思います。

稲葉：ありがとうございます。富士山に関係のある、土井さんいかがでしょうか。

土井：地元のエフエム局がこうやって富士山に関する番組を作ってください事は、非常にありがたい事。皆さんおっしゃる通り、単語についてわかりにくい部分もあるが、この辺は補って頂きたい。今日は、30分番組の一部を聴かされたのだと思いますが、構成資産の一つに山宮浅間神社がある。ここは建物がなく、木の間から富士山が見え本当の「遥拝」という部分があるのでこういう所を是非、説明して頂けたら良い。

鳥羽：「遥拝」という部分だけを取上げさせて頂いた回もあります。この時は構成資産の一部として綺麗に整備された「山宮浅間神社」の詳細をご紹介させて頂きました。

稲葉：「登拝」など、言葉の意味もそうですが、「富士山の御神徳を拝しながら登山する事ですよ」という簡単な説明を入れて頂くとわかりやすい。

小岱：男性ナビゲーターの声が良い。どんな顔をしているのか、番組表に載っていないで残念。このナビゲーターは他の番組も担当されていますか？

鳥羽：普段はテレビのナレーション等をされています。

小岱：今までラジオエフにはなかった声で気になり、顔を知りたいと思った。話し方も聴きやすくして良い。以前、東海道表富士の西川卯一さんの富士山ツアーで、富士講しながら登山した事があります。昔は、女性はここから先へは行けないという場所もあったそうですが、富士山信仰も含め富士山は想像ができない位、すごく奥が深いと思う。今だ、宗教的要素も多く、富士ニュースで記事にする際にはものすごく気を付けています。皆さんおっしゃる通り、「遥拝・登拝」など、難しい単語については捕捉して頂きたい。他の回も是非、聴いてみたい。

長橋：今回は信仰のパートでしたが、4年続いている番組だけあって、他にも聴きたくなる要素がある。

稲葉：もう少し聴きたいという声が多いので、再放送するのも良い。

安藤：今回、番組審議委員会という事を忘れ、一リスナーになれたと思う。

難しい単語はあったが、時代ごとに変わっていく富士山や、明治時代になってから女性が登れる様になったとか、こういった事を、こんなに身近な富士山なのに始めて知りましたので、もう少し聴きたい気持ちがあります。今日、ここを出てから富士山の見方が少し変わる良いきっかけを頂いた。富士市・富士宮市でしか聴けないのがもったいない様に思う。他局でも是非、放送できれば良いと思う。

稲葉：富士山が見えない様な場所にお住まいの方々へ放送するのも良い。

安藤：山梨県に提供しても良い。

和久田：喧嘩売りますね。(笑)

稲葉：本来、富士・富士宮の方が表富士と呼ぶ富士山は、山梨に行くと表富士という様に、考えも見方も違う。構成資産の事をもっと良くわかってもらえるかも知れないし、足を運ぶきっかけになるかもしれない。そういう意味で土井さん、富士宮市観光協会としていかがでしょう、他地域にこのエフエリアでは、富士山にまつわる番組を放送していますが是非、聴いて頂けませんかという、よそとのお付き合いのきっかけに使えませんか？

土井：今までマスコミ関係ではありませんが、そういう形で使っても良いと思います。

稲葉：ラジオエフとして、番組を共有し合う様な他局とのお付き合いはありますか？

小沢：たまにあります、滅多にありません。

和久田：例えば、富士山観光にいらっしゃる方々に聴いてもらえる様なメディアにして聴いて頂く事がもし可能であれば、また、英語をはじめ多言語に対応できれば、新富士駅などでヘッドホンで海外の方にも聴ける様にすれば良いと思う。海外から富士山に興味を持って来られる方が多い。せっかく富士山へいらっしゃるのだから、富士山のご紹介ができれば良い。

小沢：販売するという事ですか？

和久田：売るといふか、無償で提供して欲しい。

小岱：旅行と言えば、皆さん泊まりますよね。以前、県外からお客様がいらっしゃった時、宿をとる機会があったのですが、富士山が開山すると海外からの登山客でほぼ満室でした。旅館やホテルでも良いと思います。

稲葉：ホテルに行くと、案内板に題名別にボタンがありそれを押すと詳細が聴けるといふ方式も、富士山を通しこの地域を知ってもらう為のきっかけになるかもしれない。3カ国語位あると良い。

土井：夏の間は登山バスでは、バス会社の車内アナウンスで、登山時の注意事項がアナウンスされる。新富士駅から富士山まで、1時間以上のバスの車内でこういうものを流しても良い。

稲葉：こういう事はバス会社にお問い合わせできるのでしょうか。

小沢：やろうと思えばできると思います。

稲葉：ただ、登山への注意事項を流すより、乗客は楽しいかもしれない。

いくつかの言語で用意し、お客様の母国語で放送されたら楽しめると思います。

和久田：商工会議所の青年部やJC、富士市などでも、富士山に関わるイベントを行っている。富士山を0メートルから登るなど、それぞれ富士山を盛り上げる柱と柱をつないでこういう所で流してご紹介したり、それに対する意見を聞きつつ1つの番組にしてみるなど、色んな所にリンクを貼ってみる事も良い。

鳥羽：生放送の中でも取上げられる様な内容だと思います。

稲葉：新聞記事だけだと読まない人も多い為、耳から入る情報も合わさるとお互いに相乗効果が出る。色んな情報をリンクする事で、広がりがでる。

鳥羽：定期的にイベント等があると思いますが、富士山周辺の話題を放送していきたいと考えています。

長橋：これまで4年間放送してきて、話題はまだありますか。ここは大事な所です。

和久田：ネタがつきそうですね。

鳥羽：以外と話題はまだあり、取上げ方ひとつで、まだできることは沢山あると思います。

「遥拝」という言葉も知りませんでした。番組をつくりながら知りました。この難しい所を、いかにわかりやすく伝えていくかがこれからの課題だと思います。

長橋：ちなみに今、何月分まで企画がありますか？

鳥羽：来月分までです。

安藤：NHKのプラタモリで富士山が取上げられていました。

和久田：2週に渡って見ました。面白かった。

安藤：“そうだったのか”という富士山の話題が多くネタの元になるかもしれません。

稲葉：結構皆さん、色んなところで富士山を取上げてくださっているとは思いますが、全体的に特化しているものが多く、富士山の全体像について取上げている番組は少ない。たまには富士山全体を取上げて頂ける回もあると良い。

安藤：和歌でも富士山を読んだ歌は多い。

稲葉：和歌から派生させた話しも良いと思う。

和久田：富士市では葛飾北斎を絡めたイベントが開催されます。

小岱：北斎サミット in 富士が10月19・20日の2日間、ロゼシアターで開催されます。

富士ニュースで記事を書きましたが、北斎が富士市で描いたとされる浮世絵を見られます。場所はそれぞれ現在の大淵片倉の法蔵寺・浮島ヶ原自然公園・ふじのくに田子の浦みなと公園から見た富士山の風景、3枚が観られます。

和久田：その辺の話題も取上げたら良い。

小岱：富士市は今、北斎サミットに力を入れています。全国の北斎に関わる場所が今回、富士市に集まります。北斎にゆかりのある場所を回るツアーもあります。

山本：北斎マニアの聖地にしたいという事でしょうか。

小岱：北斎の漫画を描く方や、長野県小布施に北斎館という場所があるそうですが、その館長さんをお招きし、北斎が描いた街という形で町興ししたり、観光の1つとして取り入れたいそうです。ただ、知らない人は多いと思います。私は担当として記事を書き知りましたが取材しなければ、どこで何をするのかわからない状態です。富士山についてももう少し、情報発信をしても良いと思う。

稲葉：イベントがあっても知らない人が多い。私も北斎サミットを今初めて知りました。これも富士山の1つなので、もう少し皆さんに知れ渡ると良いと思います。

鳥羽：富士山が世界文化遺産になった背景に、信仰の対象と芸術の源泉とあります。芸術の分野も和歌や浮世絵も含め、掘り下げられると思います。

和久田：首都圏の産業関連の様々な協会に所属していますが、ブレイク的に入ってくる案内に“絵の見方”とかがよく入ってくる。インバウンド・アウトバウンドしているが、こういう需要がすごく出てきていると思う。今後、富士市で開催される北斎サミットもそうですが、こういう所にスポットをあてるのも面白い。全国的にこういうものを見ることも良い。海外の方がたくさん入ってきているので重視されてきている。良い視点である。

小岱：もっと地元の方に情報発信しても良いと思う。北斎の描いたスズメの絵があり、そこからスズメが出てくる「抜け雀」というお話をする落語家が招かれる。せっかく富士市へ呼ぶのなら、もっと全国へ発信しても良い。

稲葉：今、葛飾北斎は、外国人がすごく興味をもっていらっしゃる様です。北斎が描いた浮世絵の実際の場所を、歩いてみたいという方も多いそうです。使わない手はない。

鳥羽：浮世絵や有田焼きは、海外へ出て有名になっています。日本人よりもその価値を高く評価して下さるという事です。北斎サミットなどのイベントもご紹介し、地元の方に広く伝えられたら良いと思います。

内藤：番組で、左富士を取上げた事はありますか？

鳥羽：番組が始まった頃、取上げさせて頂いた事があります。

内藤：吉原宿は昔、度重なる高潮の壊滅的被害により、元吉原から中吉原、そして現在の左富士に移転された歴史がある。また、吉原祇園祭の南町の山車には富士山が彫刻されている。リスナーは富士・富士宮という事で、富士山というアプローチでなく、地元の人に身近な物として紹介すれば、より自然に富士山を感じられるかもしれない。吉原祇園祭は富士山と深く関係のあるお祭りではないが、6月の祇園祭時期に合わせ、取上げて頂けたら良い。富士山が入った山車も2台あったと思うが、祇園祭のパンフレットの編集をしている関係で、この辺のネタはご提供させて頂きます。是非、吉原祇園祭も取上げてください。

小沢：平日の外国人の割合ですが、吉原ルートが26%、富士宮ルートが10%、国籍別では、富士宮口で欧米系が41%、東アジア系が44%、東南アジア系が9%となっています。

稲葉：現在、吉田口の観光客が多いと聞きます。富士宮市も外国の方が多く歩いていらっしゃいます。

和久田：バックパッカーみたいな方をよく見かけます。

山本：吉原でも若い欧米系の外国人を多く見かけます。

小岱：吉原商店街のカフェ・ソファリは3Fが宿泊施設になっています。富士登山シーズンには、登山客の外国人で部屋が埋まるときいています。

小沢：富士宮ルートは吉田ルートと比べると、約3分の1の登山客だそうです。

和久田：吉田ルートは観光が丁寧で登山客も多い。色々と丁寧にする事は良い事。

稲葉：見せ方も大事です。今、すごくいい事をやっている。これを外国語/多言語で紹介する事も大切。今日は、つたない司会で申し訳ありませんが、皆さんに助けていただき

した。どうもありがとうございました。

小沢：この番組以外で何かご意見がありましたらどうぞ。

長橋：今日、初めてお会いした内藤さんのお話を聴くと、BGMの音楽の事など詳しく、やはり若くて、感性が鋭いと思った。

内藤：一、音楽好きとしての意見です。

長橋：今までと違う、新たな切り口が出て関心した。

和久田：若者がラジオもテレビも離れ、何に興味があるのかYouTubeやSNSへ移行している部分も踏まえ、若者を取り込むには、こうした物と連動させる事も必要。

稲葉：今までと違い都会的に聴こえたという視点は、ものすごく新鮮な感覚。

和久田：この番組は感情移入せず、坦々とナレーションしている。

内藤：それもよし悪しがある。伝えたいことは平坦で良い。

和久田：耳障りだから良いという事もあるのでは。

内藤：車内で聴くにはピッタリ。情報がいっぱい入ってきたというより、オシャレで雰囲気の良い番組。個人的に富士山をもっと伝えたいのであれば薄い印象。

小岱：本当に若いですね。

稲葉：私もそう感じました。

和久田：高校生にも聴いてみたいですね。

長橋：若い意見は大切で必要。できれば若い10代に是非、聴いてみたい。

稲葉：私たちが普段話している事が、ものすごく新しいと感じる事もあるでしょうし、こういう若い意見を聴いていかないと先へ進められない。今日は、内藤さんのご意見が非常に勉強になりました。ありがとうございました。

山本：まだお時間がありますので、最後にお聴きしたい事があります。

この番組に限らず、富士山のふもとのラジオ局として富士山というテーマをアピールするのは間違いない事ですが、この地元に向け、あたりまえの富士山をアピールする取り扱う事は、色んなアプローチの仕方があると思います。特番をつくるにも常日頃の悩みどころでもあります。その辺のアドバイス・ご意見があれば是非、伺いたく思います。当たり前で難しい所がある。

和久田：富士市では富士山に対する熱い思い・感じはあまり受けません。世界文化遺産になった時も、富士市としては静かな印象があった。

山本：富士宮市に比べると、そうかもしれません。

和久田：他府県、例えば兵庫県の姫路城周辺の方は、ものすごく自分達の世界遺産についてすごい勢いで話す印象がある。こういうのが少ないのは何故でしょう。

山本：確かにそうかもしれない。富士山が好きな方は本当に沢山いらっしやると思います。

和久田：富士山はものすごいものなんですけどね・・・。

稲葉：幼い頃、静岡県西部に父の転勤で引っ越していました。お正月・お盆・法事と、年に3回位は富士宮に帰省しましたが、電車から富士山が見えるとすごく安心感があったのを覚えている。この地域から離れていた事もあると思いますが、首都圏のイベントや会議から帰ってくる時、あ〜良かった。地元に戻ってきたという安心感があります。

和久田：富士山が身内になっているのでしょうかね。

稲葉：そうかもしれません。

安藤：2月23日は「富士山の日」ですが、来年2月23日は天皇誕生日でもあります。

「富士山の日」が国民の休日、この辺もアピールに取り入れると良いと思います。

小沢：私は富士宮市青木の生まれで、幼少期から目の前に大きな富士山がそびえています。恥ずかしながらまだ、富士登山をした事ありません。

和久田：やはり富士山は身内的存在。自宅へ帰り、母の顔を見るとホッとしますが、お母さんや自分の家を褒めることはしないですよ。なんとなく近い感覚がある。当たり前なのでしょうね。

土井：富士宮は富士山という意味であり、観光客であれ仕事関係にしろ、この人達がいらっしやる時にまず、富士山が出ているか出ていないかが一番気になる。「今日は富士山が見れて良かったですね」という話しのきっかけになる。それだけ身近に感じているという事。

和久田：そう思います。富士山が出ているだけで8割OKです。

小沢：子ども達もみんな、富士は日本一の山という歌「富士山」も習います。

稲葉：改めて富士山と言われても、普段毎日みているものだからこそ身近な存在。

富士宮市役所7階から望む富士山がとても綺麗です。お客様がいらっしやると「私の富士山を見せてあげますからね」という感覚でお連れします。皆さん、それぞれの富士山への気持ちを持っているのではないのでしょうか。言葉ではなかなか説明できない位、中に入り込んでいる。この辺が難しいのでは。

山本：「安心感」がキーワードかもしれません。どうもありがとうございました。

時間になりましたので、最後に小沢常務よろしくお願いします。

最後に

小沢：今日も忌憚のないご意見を、ありがとうございました。

皆さん、また2年間、どうぞよろしくお願い致します。ラジオエフは今年度5月から5ヶ月経過した時点で、昨年と比べ順調に進んでいます。

これからも、皆さんの忌憚のないご意見を取り入れつつ、良い番組づくりをして行きたいと思っております。引き続き皆様のご支援、ご協力、応援をよろしくお願い致します。次回は、12月11日（水）13：30からです。

どうもありがとうございました。